

【インスピレーションを得るためのカードを用いた美術鑑賞】 発話アーカイブ 5.1

日時…2021年5月1日(土) 14時～16時30分 (150分)

場所…オンライン

人数…4人(1～4番)

事前準備…紙とペン・鑑賞作品のリンク、画像データ



【鑑賞作品】

岸田劉生

「道路と土と塀」

(切通しの写生)

<https://>

artsandculture.google.com/

[asset/road-cut-through-a-](https://artsandculture.google.com/asset/road-cut-through-a-hill-kishida-ryusei/)

[hill-kishida-ryusei/](https://artsandculture.google.com/asset/road-cut-through-a-hill-kishida-ryusei/)

[bgGXUv2PlIXNXQ?hl=ja](https://artsandculture.google.com/asset/road-cut-through-a-hill-kishida-ryusei/)

①ウォーミングアップ

- ・5分間絵を鑑賞し、感じたこと、考えたことをメモする。

ここからプログラム中、ビデオはオフ。

鑑賞後、順番に感想を発表する。

発表者の発話が終わったら、次の発表者が1つ質問をし、発表者が答える。

4人で約12分

*以降、発話の書き起こしは編集により、実際の発話内容とは異なる部分があります。

|||||

1..えーつと実物をよく見ている絵で、あの、こういうので見ると、ちよつとこのつぺりした感じになって、迫力が感じられないのは、ちよつと残念だなと思ったんですけど、逆にそのオンラインののつぺりした画像だからこそ、目に入ってきたものもあるなっていうのを思いました。

いつもは、下の土の盛り上がりには圧倒されて、それを見に行っちゃうんですけど、それではなくて左右の壁、左の白い壁と右の土の法面の対比であるとか、あと土の左下・・もしくは、右の法面の方の草とか木とか・・そういう植物の細かいところ・・とかに、目が行ったかなと思います。

あと左の白い壁の、板チョコみたいな部分と、下のつぶつぶした部分の対比とか、いつも土に目が行っちゃうのに、そうじゃないところが見れたかなと思います。以上です。

2..そのいつもとは違うところに目が行ったのは、のつぺりした感じと言われたんですけど、他に何かこう思い当たる理由とかありますか？

1..質感が無いのかな？と思いました。いつもは凄く絵の具のテラつとした泥みたいな、あの・・絵の具が匂ってくるみたいな・・絵の具の質感っていうのに、目が行くですけれど、オンラインだとそれがないので、均質に、包装紙みたいな感じなので、全体に目が行ったのかな？って思います。

|||||

2..えーっとわたしすみません（笑）、あの実はなんかこういうの全然明るくなくて、この絵？初めて見たんですけど・・・見た感じで、なんかすごい感想としては、なんか時代いつぐらいかな？とか思ったりして・・・

隣りの左側の壁はすごく日常の道路っぽい感じ・・・っていうか、日常使う道にありそうな感じなんだけど、何だかその普通使う道にしても、このでこぼこ感ってすごいなとか、どのぐらいの坂道なのか、見れば見るほど凄そうだし、私のイメージでは、自転車を押して上がるような感じだけど、何かごつごつしてるなっていうのと、あと何だろ？硬そうだけど、硬さがいまいよく分からないなと思って・・・

で、あの・・・このなんか硬そうだけど、っていうのと対照的に、右上の・・・あの「法面みたいな、こうホ口ホ口した土の感じ、なんか落ちてきそうだなみたいな、そのこう「ホ口ホ口感」みたいなのが、ちよっと結構氣に入ってるというのが・・・ぴったりかな？なんとなく氣に入った感じで。

で、あとは何かその空の色の感じが、ちよっとこう違和感って言うか、何か・・・何だろ、晴れてるのか？曇りなのか？何かどんよりとも、すっきりとも、何とも言えない、なんかこう季節をとらえにくい、空の色だなんていう風なことを感じました。はい以上です。

3..えーっと比較的なんていうんですか、その絵の中に現われているその・・・質感みたいなものとか、あの・・・結構こう発表されていて、色々今仰ったと思うんですけど、例えばその土の硬い部分と、その・・・何て言うんだろな、コ口コ口とこう柔らかくなってる部分って言うのかな？その部分とのこの・・・違いなんかはやっぱり絵の中からそれを感じ取ったっていうことでしょうか？

2..えっともしかしたら、それは凄く私の経験則のフィルターが掛かったかもしれないなと思って、今質問をされて思いました。

確かにこう・・・例えば右側・・・右のその土の感じとかから、ホ口ホ口っぽくは描かれてあるなっていうのを、見て感じて、その白い粒々とか、ちよっとこう腐葉土っぽい感じっていうのもあったかもしれないけれども、なんかそれと自分の経験がかなり結び付いたかもしれません。

特にそのゴツゴツっていうその盛り上がったところとか、何だろ、自分がかつて歩いた道と経験が、こうオーバーラップしたっていうところもあるのかなと、今質問されて思いました。はい以上です。

|||||

3 ..僕はこの絵はちょっと本物を拝見したことがないですが、ただ、この絵自体はあの多分画集か何かかな？なんかで見たことがあるような気がします。

それで・・そうですね、えーっとこれちょっとデーターがなんか1915年ってちょっと見たんですけど、大正・・四年とか五年とかそのあたりだと思えますけど、えーっとその時に自動車が走っていたのか？（笑）ちょっと僕よく分らないですけど、あのーなんかちょっとこの道下の土のところにこう・・轍というか、この馬車の轍なのか？車の轍なのか？分らないですけど・・がちらりと見た気がしたので、なんかここが造成地みたいな感じにはなってるなということは感じてたんですけど・・

なんか草が結構育っているじゃないですか、・・っていうことは、ここを多分切り崩してまあ切り通してみたいに、こう造成してから、実際にかなり日にちがもう経っちゃっているんじゃないかな？っていうか・・もしかしたら数年たっちゃってるかもしれないんだけど（笑）。

なんかその辺が感じられたので、なんかこれ・・すぐ家が建つとか、そういう感じではないだろうなと思うと、何かちょっとこう時間の経過みたいのを、ここで、この絵で感じて・・あのーそういうことをちょっと感じました。

それであと季節の話なんですけど、なんか影の状態から見ると夏なのかな？っていうか、日差しがかなり強い、秋の日差しの強い日なのかなと思いますけど、あの手前側に2本の影みたいなものが映っていて、まあ電柱は・・大正の四、五年って電柱があったのかどうかもちよつとよく分らないですけど、電柱の影なのかな？ってちよつと思ったりとか、これがちよつと・・はつきり言って分らないので、すぐ興味をもったところです。えーっと後、この坂の向こう側が見えないって言うところが、結構ポイントで、えーっと坂の向こう側が砂浜になって、海になっているのか、ずーっとまっすぐな道が平らに続いていくのか、あるいは何だろうな、森みたいなのところに入っていくか、なんか全然想像ができない・・ちよつと切り崩した造成地みたいなことから思うと、余計あの先が見えないので・・何か・・それでこの絵を見る時の自分の心境によって、坂の上・・先に見えてくるものが違ってきたりするのかなってちよつと思いました。

4 ..夏の感じっていうのをさっき仰っていたんですけども、そういう影の強さは、他に何か実はそれ以外にも、夏だなって感じたことがありますか？

3 ..あのどなたかが仰ってたと思いますけど、やっぱり空の青さみたいなものが・・何かその・・夏というものを感じさせてるような気もしますけど、ただこの手の青さって、冬でももちろん・・もしかしたらあるかもしれないので（笑）、多分手前の2本の影がわりとくつきり出てるっていうところから、きつと・・夏を連想したのかな？って思いますけど・・これも多分、あのどなたかが仰ってた、経験則に基づいてるのかなという気もします（笑）。

【カードを使った鑑賞】

「異なるものを自分なりに勝手に結びつける事＝解釈」

と仮定する。通常の鑑賞の中でも、作品と作家、自分、周辺情報、他人の感想など、で様々な情報を自然に結びつけて「解釈」している。

今回はそこにランダムに選ばれた「カード」に書かれた、唐突で、偶発的で、繋がりを持ちにくいものを入れ込んでみる。より外部、異物感のあるものをどう結びつけるのか？というところがポイント。作品の方へ収束していく思考や想像よりも、拡散してゆく、寄り道、脇道、袋小路へ彷徨ってゆく過程もまたよい。

・次のサイトから、代表者が1枚カードを内容をよく見ずに選ぶ。

<https://www.yusatoweb.com/%E3%82%AB%E3%83%BC%E3%83%89%E3%81%A%E3%82%88%E3%82%8B%E9%91%91%E8%B3%9E>

・各自カードの内容を手元の紙に書き写す。（図は大体の印象でも良い）…3分

・カードの内容を自由に解釈し、任意に鑑賞を行う。…12分

＊カードの内容はどの様に解釈しても良い。

文字の形や、言葉の音、線の形など、ごく一部の要素からの連想や、複数の要素を強引に結びつける拡大解釈でも良い。

また、解釈が適応される範囲も、作品画像だけでなく、自分が今置かれている現実であったり、自身の脳内であったり、その複合であったり、任意で設定して良い。

・もう1枚カードを代表者が選び、書き写し・解釈・鑑賞を繰り返す。…（3＋12分）

・これまでの鑑賞で気になった事や作者作品名などを手掛かりに、

自由にWEB検索などを行う（手元に関連資料があればそれでも良い）。

休憩も任意でとって良い…30分

・これまでの過程を順番に発表する。

発表者の発話が終わったら、次の発表者が1つ質問をし、発表者が答える。

参加者1人につき、時間は約10分。

【傾聴】

けいちよう

耳を傾け、熱心に聞く。

耳を澄ませて、

聞こえるものを受け入れる。

[Listening]

Listen enthusiastically.

Listen carefully

Accept what you hear.

Closing your eyes is also good.



【疑念】

ぎねん

果たして本当かどうかと疑う心。
それが必要なかもしれません。
「本当以外」を塗りつぶした時、
何が浮かび上がるのでしょうか。

[Doubt]

A heart that doubts whether it is true or not.
It may be necessary.
When you fill in "other than true"
What will emerge?



[illegible]

で、文章は傾聴で、あと英語の字がある中で、なんとなくそのフラクタルを見てたら、カサコソカサコソ音が聞こえるような気がしてきて・・であの絵をよく見ていたら、なんとなく音っていうことがすごく気になってきて、あのテキストも「傾聴」でしたし、それであの画面・絵が四つの面にすごくバンツて切られる気がして、空と、法面と、土と、白い壁、その4つのその平らなピタッとした面それぞれから、違う音がカサカサ、カサカサ聞こえてくるような、なんかそういう気がしました。

で、もう一回テキストのカードの紙を、落ち着いて見たんですけれども、なんかちょっと・・怖い気持ちになって、四つの面が、空と塀と土と法面っていう四つの面が、こうワッって迫ってくるような、怖い感じだになっていう感じがしたんですけれども、でも、もう一回そのカードをよく・・なんとなく見て・・みた時に、ドローイングの上の方に、余白があるんだなっていうことに気づいて、で・・なんかこうアメリカ合衆国みたいな国土の下の方に旗があるんだけど、上の方は空いてるみたいな・・あれなんでここドローイングの上の部分は余白があるのかなって思って、もう一回絵の方も戻って見たら、私がちよっと怖いなあって感じてた土も、上の方に少し余白部分が・・えーっと、土ですね、道路・・法面の方ではなく、そちらの部分も、あの余白部分っていうのがあるんだなっていう風に思っただけです。

で、次のカードにだって、私が代表で選んだんですけど、私は「疑念」っていうカードを選んだんです。で、その・「疑念」っていうのは、言葉で選んだんじゃないくて、そのドロージングの絵で選びました。あんまり目が良くないから、あの・字がちっちゃいと

見えなかったの・・なんでそのカードを選んだかって言うと、そのドローイングがゾウさんに見えたんです。なんかもう自分がその前の「傾聴」のところ、ぐぐっと入って、すごいあの真面目くに、深く深く入って鑑賞してて、なんか疲れてきちゃったので、なんか可愛いゾウさんみたいな絵で、ちょっと休憩したいなと思って、ゾウさんを選んだんです。

だけど、深く入り込みすぎちゃったので、じゃあこれ使ってどうしようって思ったから、なんかポカーンとしちゃって・・どうしようかなって思って(笑)。ああ、ちょっと真面目に見過ぎちゃったから、これは少し離れるって言うことでいいのかなって風に、なんとなく思いました。

で、テキストもなんとなく・・そういう感じのテキスト、「本当以外塗りつぶした時、何が浮かび上がるのでしょうか」っていうところに・・なんか自分が一生懸命さつきまでやってた時間ってのが・・こう・・洒落臭いになっていう風に思って、ああ、なんか嘘っぽいになっていうか、洒落臭いになっていう風に思って・・

じゃあ今度はあの・・この絵の中から、嘘っぽい所っていうのいっぱい探してみようっていう風に切り替えて、それで嘘っぽいところをいっぱい探したら・・結構意外に・・嘘っぽいところがいっぱい出てきて(笑)・・めっちゃめっちゃ上手な絵だっていう風に思ってたんですけども、でもなんかそれって嘘臭くない？って感じの事が色々出てきました。

で、今の休憩の時間の間っていうのは、ちょっと自分も離れて・・お茶飲んでお菓子食べてぼけーとした後で、あ、岸田劉生って、すごく・・なんか巨匠とか、上手いって言うように思われてるけれども、実は劉生が嫌いだっていう人とか、岸田劉生は下手だって風に思ってる人も、中にはいるんじゃないかなと思って、そういうのをちょっと10分ぐらいスマホですっとサクサク探していたら、やっぱり・・意外にそう思う人とか、そう見てる人なんかもいるんだなっていうのが出てきて(笑)、面白いなって思いました。そんな感じでいいでしょうか。

2..その「傾聴」の方で、そのまあすごく怖さを感じるぐらい、土に飲み込まれるような音を感じたっていう風なことをおっしゃったんですけど、どんな感じの音が聞こえたのかなっていうようなところに興味があるので・・それを聞けたらなと思います。

1..えー土・・音って・・そのなんていうか、あの絵の鑑賞って、みんなそうなのかもしれないんですけど、こう・・五感に訴えてくる感じがあるじゃないですか、見ると、音が聞こえたり、熱とか温度を感じたり、なんかそういう中で、すごく土の音・・こう、うーんと・・膨張していくような感じ・・もこもこ・・まあよく岸田劉生ってモコモコとか言いますけれども、そのなんか・・膨れてどんどん膨張して迫ってくような？そういう感じ

の音、「ボコボコ」とか「もこもこ」とか、擬態語で言つとそんな感じかなって思いました。

|||||

2..私は、その一枚目のカードの「傾聴」のところでも面白いなと思ったのが、えっとね英語の説明のところでも・そう「closing your eyes is also good」って言うね(笑)、絵を見るのに目を閉じるのもいいとて書いてあって、そこがとても面白いなと思って、なんか目を閉じてこの絵は見えるのか？みたいなところに、まず面白いなと思いました。

とはいえ、目を閉じてはちょっとなーと思って、ああ、この絵から聞こえてくる音は何だろうと思って、ちょっとこの絵を見ながら耳を澄ましてみたら、馬車の音、鳥の声、で、風がさわさわわわっていう音とか・あとか遠くから子供の声が聞こえたりとか・なんかこうジャリジャリっていうような音も聞こえてきたりとかして・

で、どんな状況なんだろうなーとかっていうところに思いをはせると、やっぱりでも私には自転車を押して上がっているみたいな情景が最初に考えちゃって(笑)、それが強くて、なんか自分の中で整合性をつけるために、馬車が通り過ぎた後、自転車で押してここを登る？とか思いながら見ていると、なんだろうなあ、何かこう・私に見えてきた情景は、何か旅人って言うか、なんかがどこから帰ってくる道すがら、この坂を登っていて、で、坂の向こうには待ってる人がいるって言う感じがしてきて・

で、なんかちょっと・最初に見た時よりも、引いた感じだったり、ちょっと下の目線で見てみると、最初すごく険しいと感じた坂が、少しくなだらかに見えてきて・そうするとちよつとこう離れて、下面からこの絵を見ると、空の青さも最初に見た時よりも、少し綺麗に・澄んだ綺麗な色に見えてきて・で、何だろうな、その坂の向こうに、希望とか豊かさみたいなものが待っているような気がして・

で、もう一度耳を澄ましてみると、あの・この左下の隅のちよつとここ草が生えているの辺から、なんだろう・土の中で虫がうごめくような・なんかそんな音が・聞こえてはこなかったんですけど、そんな音を感じたいなと思ったり・そうですね・あと、なんかそうすると、ちよつと蜂が飛んでるような感じもしてきたり・っていう風なところでした。

で、えっとちよつとその文字の情報に意識をかなり取られていたので、果たしてこのドロ잉はどう関連付くのかなみたいなのを思った時に、その端のこのライン、線が、何か道の端のラインみたい感じがして・で、真ん中の塗りつぶしたところが、足跡みたいな感じがして、なんかそんなこう・踏みしめる・土を踏みしめるだか、ちよつと・「ギュッギュッ」みたいな音が聞こえてきたなーって・何か絵を聞くんっていうのも、面白いなという体験をしました。

で、えっと次の「疑念」っていうところについては、やっぱりキーワードは・そう私もこのドロ잉はゾウさんみたいだなって思いました。はい。キーワードはやっぱり

「本当かどうかと疑う心」「本当以外を塗りつぶした時に何が浮かび上がるのでしょうか」っていうのを、そのまんま、この絵の本当以外を塗りつぶしたら何が見えるんだろうかと思つて、本当ってどこだ？みたいな視点で見た時に、ぐぐぐと見た時に、私にとつてこの絵の一番本当らしいところは、左のこの坂を登りきった上の、あのちよつと山形に尖つた部分・・・が私にとって、なんか一番本当っぽく見えて、そうするとその白い壁との間に、少し隙間から何か白いものが見えたりとかして、そうすると、なんかねあの・・・音を聞いた時には向こうは誰かが待っていて、どっちかと言うと、あー海が見えても不思議じゃないなつて思つてただけで、そこに注目したら、なんか、あ、もしかしたらこの壁の向こうには、なんかすごい住宅地って言つか、新興住宅街みたいなものが広がっているんではなからうかと思つて、実はそれが本当って言つか・・・なんかうん・・・そういう景色を感じてしまつて・・・

で、そののに着目して絵を見たら、やっぱりその見えない向こうには、街が広がっていて、その右側の法面とかも、実は何か宅地造成のための・・・ほとんど宅地造成の様に整備されてゆくような途中っていうか、で、この道もすぐこう馬車が通つて自転車押してみたいな、ちよつとノスタルジックな道路つて思つていたのが、あ、もしかしたらこれはこれから舗装されるのかもしれないなと思つて、なんかそんな事、全く違う景色を感じました。

で、もう一度私にとって、や、ちよつと待てよ、本当ってなんだろう？つてもう一度見た時に、なんかそれはすごく観念的なことにもなるんだけど、この真ん中に描かれた道？その・・・私とも重ねて、私の中に道があるって言つことだけが本当で、その周りの景色とか、なんか状況つていうのは、何でもいいのかなあつてこと思つて、なんか、また何かその「傾聴」とは違う・・・またこう、絵の見方ができたなーつて思つたところですよ。

で、調べたのは、私全然情報とか知らなかったもので、とりあえず作者と作品のタイトル名とかで検索したら、この絵が描かれた場所・・・代々木の・・・参道につながるどうのこのつていう風な情報が出てきて、なんかなんとなくその後の「疑念」の時に感じた事も、遠くはなかったんだなあとか、なんかそんなことを思つてはい・・・すごく面白いなあと思ひました。はい以上です。

3・・・結構、2番の方が、とても何ですかね？えーつと身体性と言つのかな？要するに何かこう「傾聴」ということで、聞くという、音というところからこう入つていつて、だからその・・・絵の中で行われている色んな事柄をこう・・・体で感じていつた場合、自転車の話が今出てましたけども、あの・・・なんかそういう筋肉運動みたいな（笑）、何かそのえ・・・体感していくことで、こう感じるものとかの話も出てきて・・・物凄く五感的な広がりがあるて面白いなと思つたんですけれども・・・

二番目の話だと思ひますけど、「疑念」のところ、あの・・・何が本体つていうか、何が本当に必要なものなのかっていうのは、本当以外つていうのを見つける時に、必要だつ

ていうことをおっしゃったんですけど、この真ん中の道のこともそうなんですけど・・・もしかしたら明日・・・2番の方、明日これまたあの・・・違う気持ちでこの絵を見た時に、正体が、本当に・・・本当のものっていうのが、別のものに見えてくるのかなと思うんですけど（笑）、それは一体何なんだろうかっていうのはちょっと思いましたね。

2..あはは（笑）・・・その答えは明日にさせていただいていいですか（笑）。

3..あはは（笑）。はい。わかりました（笑）。

2..（笑）あの、ごめんなさい、冗談なんですけど、でも確かに、あの・・・その時の状態とか・・・何だろこう・・・気分で・・・気分っていうよりも、もしかしたらそれはこの場の力とかも影響する・・・影響するっていうか、こうやってこう対話を重ねてきて、何かそういうことも多少なりとも影響するのかな？っていう気もします。分からないです・・・

これは答え分らないですけど、ただ何か最初はやっぱりあの・・・この影、ちゃんとなんかそのものがあるってことで、この影の正体でもしかしたら、本物なんじゃないかっていう風なことも考えたんですけど、なんかでもしっくり来なくて・・・本当あの3番さんに言っていたいたように、多分私本当に・・・何か、なんとなくしっくり来る来ないっていう体感で、何かこう・・・それかな？って思うところに突っ込んでいってるので・・・はい・・・あの言っていたいた通り、もしかしたら明日は多分違うかもしれない（笑）。でも、ということは、この絵の中に本物がたくさんあるっていう風に私は思ってるんだと思います。

||

3..えーっと私はですね、この最初「傾聴」のカード僕代表で引きましたけど、選ぶ時にほとんどカードの絵が見えなくて（笑）、適当にに選んだだけなんですけど、あの・・・何かねあのー全然これ、「傾聴」って、別に音にこだわったことじゃないんだと思うんですけど、なぜか・・・なんとなくこれ、ぱっとこの・・・日本語の「傾聴」って言葉見た時に、あ、これは視覚情報じゃなくて聴覚情報っていう・・・その音のこと・・・になんか行った方が面白そうだなってちょっと思いました。

それは多分どなたかも仰ってましたけど、多分この細いフラクタルみたいなこの線が、なんとなく音をイメージさせるようなものだったのかな？って、今だと・・・ちよつと思えます。それで、残念ながらですね、実はこの絵を拝見した時に、僕はちよつと音って全く感じなかったんですよ。

えっと例えば、ここで耳を澄ませてみると、もしかしたら鳥の鳴き声が聞こえるのかな、なんて思ったんだけど、なんか森がなさそうなので・・・ダメでしょうし、なんか馬車が向こう側まで上がっていったっていう、馬車の音が聞こえるっていう感じでもなさそう

だし、何か・木がちょっと揺れてるような、木が少しこう風で揺れてるような感じで、こう描かれているので、もしかしたら静かな風の音が聞こえるのかなとか思ったりとか・何か聞こえてくるのは、本当にこのあのく埃っぽい、この道の上にあるガラガラとした石ころが、ちよつと転がる音とか、そのぐらいの音しか感じなくて、ちよつと音に関しては不毛な（笑）・大変不毛な感じがしました。

それでもむしろ僕は、その後にあの・今のこの状況、オンラインでこの今やってること自体が・これは多分・あの佐藤悠さんの作戦だと思えますが（笑）、全く無音の状態を作っているし・ビデオもオフにしてあるので、視覚情報もほとんど見えないってこともあって、なんか聞こえないって事、無音の状態ってのは、凄く最近自分が興味持っていて、特にこのオンラインのときに無音で・放送事故じゃないですけど、何か・あの・MIDIの状態が悪くて、電波状況が悪くて聞こえないのか、自分の耳の調子が悪くなって（笑）・例えば聴力の問題が不調でなんか聞こえなくなっているのか、それか・例えば・とにかく不安になるなと思っただけです。この無音という状態って、すごく不安になって・自分が喋っていることが、全く受け入れられてないじゃないかっていう・なんか無言の・抵抗じゃないですけど、なんか肯定されてないような・感じが無音ってすごくするので、何かこう・何だろな・コミュニケーションの手段として音が無い時って、すごく結構不安な状態になるなって思いました。

で、そうやって考えていくうちに、何か逆に言うところの無音の時に、みんながいろんなことを考えたり、皆さんって参加者の4人ですね。この4人がいろいろ考えたり、向こう側で何か活動してるわけじゃないですか。でもこれって、本当に連想・想像するって言うのかな、なんかそういう活動しているってことが、何の確証もないんだけど、多分そうだろうっていう、あの多分それだけの信頼だと思っただけです。それだけで成り立ってる世界なので、なんか無音っていうと、音が無いだけということになるけど、そうじゃなくて・何て言うだろうな、ぎっしり詰まった無音って言うのかな？無いというよりも、何かいろんなものが詰まっただけで、音が無いっていうか、そういう状態が何か想像されて、ちよつと面白かったなと思って・

で、そういう考えてるうちに、何かノイズとか、生活音とか、何かそういうものをただこうじゅつと聞いているっていう状態を・あの今持っていて、先程も持っていて、何か音以外のコミュニケーション手段を取ると、何か色々そういうものが見えてきたりするかなって思ってたんですけど・たまたまちよつと今あの・僕ちよつと読み始めている本があって、時間っていうのは、実はないんだってという話なんで・時間っていうのを・音が無い・音だけでこう感じるっていう状態・じゃないごめんなさい、えーつと無音の状態で、音・時間とは何かって感じるとすると、結構無理があつて、なんか時間の経過と、音は聞こえているって事が、すごい関係がありそうな気がしてるなって・思ったんですけど、そんなことやってるうちに、どんどんどん・あのく何て言うんですか

ね？離れていつちゃってる・・話が広がっていつちゃうので、これはまずいなというところ、一応「傾聴」の傾っている方に、少しこう目を付けて行きました。

いや多分これ皆さんも御存じかと思うんですけど、聞く力っていうことで、「傾聴」・・何かにかこう耳を傾けて、色々聞いていくっていうか、傾聴ボランティアっていうのもありますけれども・・そういうこう、聞く力みたいなことを少し考えてきたら、例えばこう・・何て言うんですかね？自分が肯定されているっていう風に、「傾聴」する方じゃなくて、「傾聴」されてる側の方は思うみたいなんです。つまりこれでいいんだと。自分は別に解決策とか与えて貰った訳じゃないけども、何かこう自分の話をただじつと聞いてくれるだけで、あっ大丈夫なんだって思うっていう・・なんか自己肯定感みたいのがあるっていう話を聞いたことがあって、そういうこう・・何でしょうかね、人のこう話にこう・・耳を傾けるってすごい重要なことなんだよなとかってちょっと思ったりして、何かその人の身に移り移るといいうか、何かその人自身の中にこう入っていくような、逆にその人の目から見た世界がこう見えてくるって、なんか視点の移動みたいな話が・・ちょっと連想されてて、そういえばアインシュタインなんかは、光の速度をこう・・なんか式で表わす時に、もし自分が光になったらって、どういう風に世界が見えるだろうとか、あのー光速の上に自分が乗ってたとしたら、世界ってどういう風に違って見えてくるだろうとか、みたいなことを想像していたら、なぜか光速の話、光の話が発見できたっていう話らしいですけど（笑）、なんかすごく端折った話なんですけど、何かそういうこう・・乗り移っていくっていうことが、凄く・・あのー何だろな、その本質をこうつかんでゆく大きいキーワードなのかな？なんて思いました。

で、そこで次のカードの「疑念」の方にちょっと移ったんですけども、えーっと、うん確かにこの絵っていうのを見た時に、まあ絵ってカンバスがあって、絵の具が、顔料があって、それが組み合わせでできてるだけで、言ってみればただ物質がそこにあるだけです。で、何にそれが見えるかってのは、人それぞれだし、単なるイメージであったり、イリュージョンであったり・・してるわけじゃないですか。でも、そうやって考えていっちゃうと、何か・・うーん、じゃあ絵って何なの？っていうことになっちゃうと思うんですけど、何かその・・うーん、なぜかねその時、僕自分で「生きる」ことっていう・・のをなんか連想ですぐ思ったんですよ。

で、人間って生きることとは分かっているんだけど、必ず死ぬわけじゃないですか。必ず死ぬってことを前提とした・・まあ人生っていうか、生きてることなので・・で、何かこう疑念を持ち始めると、きつとそういうことなんだろうな・・目の前にあることって、全ていずれ無くなるもんだからとかって考えちゃうと、結構・・楽しいかどうかっていうことです。それを思った時に、楽しいのかどうなのか？っていうこととか、結構疑念を持つことの意味かな？なんて思って・・例えば、その疑念を持った時に、新しい発見があって、何かそれが凄く面白かったり、楽しかったりすれば・・うーん、それはそれでもいいことだし、多分ワークシヨップなんかもそうだと思うんですけど、何か新しい発見があると、

凄く・・あ、それ面白いよねって思うことが、やっぱりポイントなのかなって・・思いました。

で、今自分の目の前に起こっていることってというのは、例えば地球が回っているって言うけど、自分はじくっとう立っていて、なんか静かにいるように思ってるんだけど、実は自分の地面も回っていて、その地球って星も太陽系の中で回っているわけじゃないですか、つまりこう・・常に動き回っているはずなのに、なぜかこう落ち着いて、じっとしてられるってというのは、逆にあの・・疑念を持たない・・疑念を持たないって言うか、疑念を感じずに何か・・妙に安心するところもあったりする訳ですよ。だから、何か両方が全く矛盾して違う話なんですけど、疑念を持って凄く新しい発見ができて面白いっていう積極性と・・なんか、逆にそういうものを全部忘れて、いやここにいる自分はじつと静かに行くだけなんだって・・ゆったりする・・みたいな、そういうこう・・何だろね、あのー凄く動き回る部分と、静と動みたいな感じ？その両方があって、初めて成り立つものなのかな？ってちょっと思いました。

で、結局・・何か検索してみたんですよ。「疑念」ってやつを。『「疑念」とは、信念と不信の間の状態で、関連のある行為を遅らせたり退ける。』っていう風に書いてあって、まあ関連のある行為を、あの退けるってなんとなくわかるんですけど、遅らせるっていうのもあったりするから、何か不安なところに入る前に、ちょっとこう・・疑念を持つことによって、ちょっと「いや、そうじゃないかもね」って構えるのが疑念かなという風に、あのー検索では書いてあって、なぜかその関連用語に、「風刺」ということが書いてあって・・ポップカルチャーとか、公共メディアにおけるパロディーみたいなことが・・あのー疑念の背後にはあるみたいなんですけども、風刺の・・風刺っていうものが関連してるみたいなんですけれども、なんかこの風刺もきつと、時代性と関連がありそうで、その鑑賞作品に描かれている・・何だろな・・先程、代々木って仰ってましたけど、この時代に対する、何かこの風刺みたいなものが、もしかしたら岸田さんは、この絵の中に含めたのかなとか、ちょっと思ってた・・実はこの絵の「疑念」というよりも、岸田さんがこの絵の中で、何か訴えようとした「風刺」って何なのだろうかなって考えてるところで時間になりました。

4・・お話が凄く深くって、何を聞いていいのかが分からないですけど・・最初のちょっと「傾聴」のところで無音って仰ってたんですが、じゃあのー聴覚・・聞くがなければ、他の例えば五感で、見て何か感じたことってあります？

3・・やっぱりあの先程も言ってましたけども、なんかこう僕はこの絵を見たとき、夏っていうことをちょっと感じていて、埃っぽさとか何かこう風が吹いていても、なんか生ぬるい風みたいな、何かそういうちょっと熱さを感じさせるようなものを皮膚感覚として感じましたね。

